

2022 年度山梨学院大学教職課程報告
－学修成果の可視化に着目して－
2022 Yamanashi Gakuin University Teacher Training Course Report
－Focusing on Visualization of Learning Outcomes－

百瀬光一¹

Momose Koichi¹

1 はじめに

2021 年 5 月 7 日に教育職員免許法施行規則(昭和 29 年文部省令第 26 号)が改正され、2022 年 4 月より教職課程の自己点検・評価が義務化された。また、文部科学省は「教職課程の自己点検・評価及び全学的に教職課程を実施する組織に関するガイドライン」¹⁾も公表した。

このことを踏まえ、一般社団法人全国私立大学教職課程協会(以下、「全国私立大学教職課程協会」と略記)では、このガイドラインに適合する「教職課程自己点検評価基準」(令和 4 年度版)²⁾と、『「教職課程自己点検評価報告書」作成の手引き 令和 4 年度版(改訂版)』³⁾を公表した。本学でも 2021 年度より、この全国私立大学教職課程協会が作成した「教職課程自己点検評価基準」を基にした教職課程自己点検評価活動を進めるための体制整備を進め、その上で 2022 年度を迎えることとした。

そこで本稿は、2022 年度の本学が実施した教職課程自己点検評価活動を踏まえた教職課程の活動報告を公表することを目的とする。特に今回は、教職履修学生に実施したアンケート調査を基にした学修成果の可視化を試み、その結果を踏まえて 2022 年度の本学の教職課程の成果及び課題について述べることにした。なお、本稿の公表に関わる一連の活動は、山梨学院大学倫理審査委員会(受付番号:22-023)の承認の基に進められたものである。

2 本学の教職課程の目標及び育成を目指す教師像

学修成果の可視化を図る上で、教職課程の目標及び育成を目指す教師像の設定は重要となる。以下、本学の「教職課程全体の目標」及び「育成を目指す教師像」、教職課程を設置している各学部の「教職課程の目標」及び「育成を目指す教師像」について、それぞれ本学 HP を基に紹介する。

2.1 教職課程の理念と目的

本学の教職課程では、「広い国際的視野と教育実践に必要な知識及び技能を備え、創造力と行動力を発揮しながら学校教育に携われる教員を養成すること」⁴⁾をその理念としている。また、「法学、経営学、栄養学、スポーツ科学の理論とその応用を基盤として、教員としての広い教養と深い専門の知識をもつ人材を養成すること」⁵⁾を目的としている。

¹ 山梨学院大学教職センター

2.2 本学の教職課程(教員養成)の目標及び育成を目指す教師像

以下が、本学の「教職課程の目標」及び「育成を目指す教師像」⁶⁾である。

- ・ 教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学び、共に成長しようとする姿勢を持つことができる。
⇒「熱意をもって子供と共に成長する先生」
- ・ 教職員、保護者・地域の関係者と連携・協働しながら職務を遂行しようすることができる。
⇒「協働的に課題解決が図れる先生」
- ・ 子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い、規律ある学級経営を行おうとすることができる。
⇒「子供の良さや可能性を伸ばせる先生」
- ・ 教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、授業を行うことができる。
⇒「授業実践力のある先生」

2.3 法学部

法学部では、中学校教諭一種免許状(社会)及び高等学校教諭一種免許状(公民)を取得するための課程が認定されている。以下が、法学部の3ポリシーを踏まえた「教職課程の目標」及び「育成を目指す教師像」⁷⁾となる。

- ・ 正義と衡平の観念を基礎にしながら、教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学び、共に成長しようとする姿勢を持つことができる。
⇒「法学を基盤に熱意をもって子供と共に成長する先生」
- ・ 他者理解を図り、物事を多面的にとらえながら、教職員、保護者・地域の関係者と連携・協働し、職務を遂行しようすることができる。
⇒「思慮深く協働的に課題解決が図れる先生」
- ・ 子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い、公正・公平で規律ある学級経営を行おうとすることができる。
⇒「公正・公平な態度で子供の良さや可能性を伸ばせる先生」
- ・ 法学の基本的素養を基盤としながら、教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、授業を行うことができる。
⇒「社会又は公民の授業実践力のある先生」

2.4 経営学部

経営学部では、高等学校教諭一種免許状(商業)を取得するための課程が認定されている。以下が、経営学部の3ポリシーを踏まえた「教職課程の目標」及び「育成を目指す教師像」⁸⁾となる。

- ・ 経営学を基盤に教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学び、共に成長しようとする姿勢を持つことができる。
⇒「経営学を基盤に熱意をもって子供と共に成長する先生」
- ・ 主体的実践能力を兼ね備え、教職員、保護者・地域の関係者と連協・協働しながら職務を遂行しようすることができる。
⇒「主体的実践力があり、協働的に課題解決が図れる先生」

- ・ 子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い、マネジメント・マインドを基に規律ある学級経営を行おうとすることができる。
⇒「マネジメント・マインドを基に子供の良さや可能性を伸ばせる先生」
- ・ 経営学・マーケティング・会計学・経済学の基本的素養を基盤としながら、教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、授業を行うことができる。
⇒「商業の授業実践力のある先生」

2.5 健康栄養学部

健康栄養学部では、栄養教諭一種免許状が取得するための課程が認定されている。以下が、健康栄養学部の3ポリシーを踏まえた「教職課程の目標」及び「育成を目指す教師像」⁹⁾となる。

- ・ 教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学び、共に成長しようとする姿勢を持つことができる。
⇒「栄養学を基盤に熱意をもって子供と共に成長する先生」
- ・ 教職員、保護者・地域の関係者と連協・協働しながら職務を遂行しようすることができる。
⇒「PDCA サイクルに基づいた食育の推進を協働的に取り組める先生」
- ・ 子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い、各教科等の食に関する指導と意図的に関連させた給食計画を実施しようすることができる。
⇒「栄養マネジメントを基に子供の良さや可能性を伸ばせる先生」
- ・ 教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、授業や給食の時間の指導を行うことができる。
⇒「食育の実践的指導力のある先生」

2.6 スポーツ科学部

スポーツ科学部では、中学校一種免許状(保健体育)、高等学校一種免許状(保健体育)を取得するための課程が認定されている。以下が、スポーツ科学部の3ポリシーを踏まえた「教職課程の目標」及び「育成を目指す教師像」¹⁰⁾となる。

- ・ スポーツ科学の知と技の基礎として、教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学び、共に成長しようとする姿勢を持つことができる。
⇒「スポーツ科学を基盤に熱意をもって子供と共に成長する先生」
- ・ スポーツで学んだ全人的にバランスのとれた態度で、教職員、保護者・地域の関係者と連協・協働しながら職務を遂行しようすることができる。
⇒「調和のとれた態度をとり、思慮深く協働的に課題解決が図れる先生」
- ・ スポーツの多様な関わり方の実践を通して、子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い、規律ある学級経営を行おうとすることができる。
⇒「広い視野で子供の良さや可能性を伸ばせる先生」
- ・ スポーツに関わる幅広い知識と技能を基盤として、教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、授業を行うことができる。
⇒「保健及び体育の授業実践力のある先生」

3 学修成果の可視化を図るためのルーブリック

ここでは、各学部の学修成果の可視化を図る上で必要となる教職課程の「ルーブリック」について、同様に本学 HP より紹介する。

3.1 法学部

法学部のルーブリックは、表 1¹¹⁾の通りである。

表 1 法学部のルーブリック

法学部の 教職課程の 目標 学年	①正義と衡平の観念を基礎にしなが、教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から積極的に学び、共に成長しようとする姿勢を持つことができる。		②他者理解を図り、物事を多面的にとらえなが、教職員、保護者・地域の関係者と連携・協働し、職務を遂行しようすることができる。		③子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い、公正・公平で規律ある学級経営を行おうとすることができる。		④法学の基本的素養を基盤としなが、教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、授業を行うことができる。	
	アセスメント方法	【科目】	アセスメント方法	【科目】	アセスメント方法	【科目】	アセスメント方法	【科目】
【4年】	3. 正義と衡平の観念を基礎にしなが、教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から積極的に学び、共に成長しようとする強い決意を持つことができる。 2. 正義と衡平の観念を基礎にしなが、教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学び、共に成長しようとする姿勢を持つことができる。 1. 正義と衡平の観念を基礎にしなが、教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学ぼうとすることができる。		3. 他者理解を図り、物事を多面的にとらえなが、教職員、保護者・地域の関係者と連携・協働の意義を理解した上で、職務を遂行しようすることができる。 2. 他者理解を図り、物事を多面的にとらえなが、教職員、保護者・地域の関係者と連携・協働し、職務を遂行しようすることができる。 1. 他者理解を図り、物事を多面的にとらえなが、教職員、保護者と連携・協働し、職務を遂行しようすることができる。		3. 子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い、公正・公平で規律ある学級経営を行おうとすることができる。 1. 子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行いなが、学級経営を行おうとすることができる。		3. 法学の基本的素養を基盤としなが、教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、クラスの実態に対応した授業を行うことができる。 2. 法学の基本的素養を基盤としなが、教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、授業を行うことができる。 1. 法学の基本的素養を基盤としなが、授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、授業を行うことができる。	
	・アンケート	教育実習研修 教育実習Ⅰ・Ⅱ 教職実践演習	・アンケート	教育実習研修 教育実習Ⅰ・Ⅱ 教職実践演習	・アンケート	教育実習研修 教育実習Ⅰ・Ⅱ 教職実践演習	・アンケート	教育実習研修 教育実習Ⅰ・Ⅱ 教職実践演習
【3年】	3. 教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学ぼうとすることができる。 2. 教育に対する使命感や責任感を持つことができる。 1. 教育に対する期待感と責任感を持つことができる。		3. 他者理解を図り、物事を多面的にとらえなが、教職員、連携・協働し、職務を遂行しようすることができる。 2. 他者理解を図り、教職員に学びなが職務を遂行しようすることができる。 1. 教職員を手本としなが職務を遂行しようすることができる。		3. 子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行いなが集団指導を行おうとすることができる。 2. 子供の発達や心身の状況に応じて適切な個別指導を行おうとする。 1. 子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行おうとする。		3. 教科等の知識や技能を身に付け、授業を行うことができる。 2. 教科等の知識を身に付け、授業を行うことができる。 1. 教科等の知識を身に付けようとする。	
	・アンケート	学校と教育の歴史 介護等体験実習	・アンケート	学校と教育の歴史 総合的な学習の時間の指導法 介護等体験実習	・アンケート	学校と教育の歴史 道徳教育指導論 介護等体験実習	・アンケート	道徳教育指導論 総合的な学習の時間の指導法 各教科の指導法
【2年】	3. 教育に対する期待感と責任感を持つことができる。 2. 教育に対し期待感を持つことができる。 1. 教育に対する期待感が不十分である。		3. 教職員の姿をイメージしなが職務を遂行しようすることができる。 2. 教職員の姿を積極的にイメージしようとしている。 1. 教職員の姿をイメージしようとしていない。		3. 子供の発達や心身の状況に即応しようとする。 2. 子供の発達や心身の状況の把握の意義を理解している。 1. 子供の発達や心身の状況の把握の意義がわからない。		3・教科等の学習指導案を項目に沿って書ける。 2. 教科等の学習指導案を自分なりに書ける。 1. 教科等の学習指導案を書けない。	
	・アンケート	教職概論 教育社会学 生徒指導・教育相談 進路指導論	・アンケート	教職概論 教育社会学 特別支援教育概論 教育課程論 教育相談 生徒指導・教育相談 進路指導論	・アンケート	教育心理学 特別支援教育概論 特別活動論 教育方法論 生徒指導・教育相談 教職概論 教育社会学 進路指導論	・アンケート	教育心理学 特別支援教育概論 教育課程論 特別活動論 教育方法論 教育におけるICT活用

3.2 経営学部

経営学部のルーブリックは、表 2¹²⁾の通りである。

表 2 経営学部のルーブリック

経営学部の 教職課程の 目標 学年	①経営学を基盤に教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学び、共に成長しようとする姿勢を持つことができる。		②主体的実践能力を兼ね備え、教職員、保護者・地域の関係者と連携・協働しながら職務を遂行しようすることができる。		③子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い、マネジメント・マインドを基に規律ある学級経営を行おうとすることができる。		④経営学・マーケティング・会計学・経済学の基本的素養を基盤としながら、教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、授業を行うことができる。	
	【4年】	3. 経営学を基盤に教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から積極的に学び、共に成長しようとする強い決意を持つことができる。 2. 経営学を基盤に教育に対する使命感や責任感を持ち、常に成長しようとする姿勢を持つことができる。 1. 経営学を基盤に教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学ぶことができる。		3. 主体的実践能力を兼ね備え、教職員、保護者・地域の関係者と連携・協働の意義を理解した上で、職務を遂行しようすることができる。 2. 主体的実践能力を兼ね備え、教職員、保護者・地域の関係者と連携・協働しながら職務を遂行しようすることができる。 1. 主体的実践能力を兼ね備え、教職員、保護者と連携・協働しながら職務を遂行しようすることができる。		3. 子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い、マネジメント・マインドを基に規律ある学級経営を建設的に両立させようとする。 2. 子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い、マネジメント・マインドを基に規律ある学級経営を行おうとすることができる。 1. 子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行いながら学級経営を行おうとすることができる。		3. 経営学・マーケティング・会計学・経済学の基本的素養を基盤としながら、教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、授業を行うことができる。 2. 経営学・マーケティング・会計学・経済学の基本的素養を基盤としながら、教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、授業を行うことができる。 1. 経営学・マーケティング・会計学・経済学の基本的素養を基盤としながら、授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、授業を行うことができる。
アセスメント方法		【科目】	アセスメント方法	【科目】	アセスメント方法	【科目】	アセスメント方法	【科目】
・アンケート		教育実習研修 教育実習Ⅰ・Ⅱ 教職実践演習	・アンケート	教育実習研修 教育実習Ⅰ・Ⅱ 教職実践演習	・アンケート	教育実習研修 教育実習Ⅰ・Ⅱ 教職実践演習	・アンケート	教育実習研修 教育実習Ⅰ・Ⅱ 教職実践演習
【3年】	3. 教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学ぶことができる。 2. 教育に対する使命感や責任感を持つことができる。 1. 教育に対する期待感と責任感を持つことができる。		3. 主体的実践能力を兼ね備え、教職員と連携・協働しながら職務を遂行しようすることができる。 2. 実践能力を兼ね備え、教職員に学びながら職務を遂行しようすることができる。 1. 教職員を手本としながら職務を遂行しようすることができる。		3. 子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行いながら集団指導を行おうとすることができる。 2. 子供の発達や心身の状況に応じて適切な個別指導を行おうとする。 1. 子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行おうとする。		3. 教科等の知識や技能を身に付け、授業を行うことができる。 2. 教科等の知識を身に付け、授業を行うことができる。 1. 教科等の知識を身に付けようとする。	
	アセスメント方法	【科目】	アセスメント方法	【科目】	アセスメント方法	【科目】	アセスメント方法	【科目】
	・アンケート	学校と教育の歴史	・アンケート	学校と教育の歴史 総合的な学習の時間の指導法	・アンケート	学校と教育の歴史 道徳教育指導論	・アンケート	道徳教育指導論 総合的な学習の時間の指導法 各教科の指導法
【2年】	3. 教育に対する期待感と責任感を持つことができる。 2. 教育に対し期待感を持つことができる。 1. 教育に対する期待感が不十分である。		3. 教職員の姿をイメージしながら職務を遂行しようすることができる。 2. 教職員の姿を積極的にイメージしようとしている。 1. 教職員の姿をイメージしようとしていない。		3. 子供の発達や心身の状況に即応しようとする。 2. 子供の発達や心身の状況の把握の意義を理解している。 1. 子供の発達や心身の状況の把握の意義がわからない。		3. 教科等の学習指導案を項目に沿って書ける。 2. 教科等の学習指導案を自分なりに書ける。 1. 教科等の学習指導案を書けない。	
	アセスメント方法	【科目】	アセスメント方法	【科目】	アセスメント方法	【科目】	アセスメント方法	【科目】
	・アンケート	教職概論 教育社会学 生徒指導・教育相談 進路指導論	・アンケート	教職概論 教育社会学 特別支援教育概論 教育課程論 生徒指導・教育相談 進路指導論	・アンケート	教育心理学 特別支援教育概論 特別活動論 教育方法論 生徒指導・教育相談 教職概論 教育社会学 進路指導論	・アンケート	教育心理学 特別支援教育概論 教育課程論 特別活動論 教育方法論 教育におけるICT活用

3.3 健康栄養学部

健康栄養部部のルーブリックは、表 3¹³⁾の通りである。

表 3 健康栄養部部のルーブリック

健康栄養部部の教課課程の目標 学年	①教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学び、共に成長しようとする姿勢を持つことができる。	②教職員、保護者・地域の関係者と連携・協働しながら職務を遂行しようとすることができる。	③子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い、各教科等の食に関する指導と意図的に関連させた給食計画を実施しようとするすることができる。	④教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、授業や給食の時間の指導を行うことができる。			
【4年】	3. 教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から積極的に学び、共に成長しようとする強い決意を持つことができる。 2. 教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学び、共に成長しようとする姿勢を持つことができる。 1. 教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学ぼうとすることができる。	3. 教職員、保護者・地域の関係者と連携・協働の意義を理解した上で、職務を遂行しようとする。2. 教職員、保護者・地域の関係者と連携・協働しながら職務を遂行しようとする。1. 教職員、保護者と連携・協働しながら職務を遂行しようとする。	3. 教育実習校の子供の発達や心身の状況に応じた適切な指導を行う上で、給食を生きた教材として指導に活用することができる。2. 教育実習校の子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導内容を考え、給食と関連させることができる。1. 教育実習校の子供の発達や心身の状況を的確に把握することができる。	3. 教科等の知識や技能および授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、児童生徒の実態に応じた食に関する指導を行い、実践へとつなげて動変容を促すことができる。2. 教科等の知識や技能および授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、児童生徒の実態に応じた食に関する指導を行うことができる。1. 授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、食に関する指導を行うことができる。			
	アセスメント方法 ・栄養教育実習 ・アンケート	【科目】 栄養教育実習 教職実践演習	アセスメント方法 ・栄養教育実習 ・アンケート	【科目】 栄養教育実習 教職実践演習	アセスメント方法 ・教職実践演習 ・アンケート	【科目】 栄養教育実習 教職実践演習	
【3年】	3. 教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学ぼうとすることができる。 2. 教育に対する使命感や責任感を持つことができる。 1. 教育に対する期待感と責任感を持つことができる。	3. 教職員、連携・協働しながら職務を遂行しようとする。2. 教職員に学びながら職務を遂行しようとする。1. 教職員を手本としながら職務を遂行しようとする。	3. 子供の発達や心身の状況に応じた給食計画と食に関する指導とを意図的に関連させ、給食を生きた教材として指導に活用することができる。2. 子供の発達や心身の状況に応じた給食計画を立て、それを食に関する指導と意図的に関連させようとする。1. 子供の発達や心身の状況に応じた給食計画を立てる意義を理解している。	3. 教科等の知識や技能および食育の視点を身に付け、行動変容を促す食に関する指導を行うことができる。2. 教科等の知識や技能および食育の視点を身に付け、食に関する指導を行うことができる。1. 教科等の知識および食育の視点を身につけようとする。			
	アセスメント方法 ・栄養教育実習 ・アンケート	【科目】 教育社会学 生徒指導論 教育相談 栄養教育実習指	アセスメント方法 ・栄養教育実習 ・アンケート	【科目】 食育指導法 教育心理学 特別活動論 生徒指導論 教育相談 栄養教育実習指導 教職概論	アセスメント方法 ・栄養教育実習 ・アンケート	【科目】 食育指導法 教育心理学 総合的な学習の時間の指導法 特別活動論 栄養教育実習指導	
【2年】	3. 教育に対する期待感と責任感を持つことができる。 2. 教育に対し期待感を持つことができる。 1. 教育に対する期待感が不十分である。	3. 教職員の姿をイメージしながら職務を遂行しようとする。2. 教職員の姿を積極的にイメージしようとしている。1. 教職員の姿をイメージしようとしていない。	3. 子供の発達や心身の状況に即応しようとする。2. 子供の発達や心身の状況の把握の意義を理解している。1. 子供の発達や心身の状況の把握の意義がわからない。	3. 教科等の学習指導案を項目に沿って書ける。2. 教科等の学習指導案を自分なりに書ける。1. 教科等の学習指導案を書けない。			
	アセスメント方法 ・アンケート	【科目】 食教育論 学校と教育の歴史 教職概論	アセスメント方法 ・アンケート	【科目】 学校と教育の歴史 教職概論 特別支援教育概論 教育課程論	アセスメント方法 ・食教育論 ・アンケート	【科目】 食教育論 食教育論 特別支援教育概論 教育方法論 教育社会学	アセスメント方法 ・教育方法論 ・アンケート

3.4 スポーツ科学部

スポーツ科学部のルーブリックは、表 4¹⁴⁾の通りである。

表 4 スポーツ科学部のルーブリック

スポーツ科学部の教職課程の目標 学年	①スポーツ科学の知と技の基礎として、教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学び、共に成長しようとする姿勢を持つことができる。	②スポーツで学んだ全人的にバランスのとれた態度で、教職員、保護者・地域の関係者と連携・協働しながら職務を遂行しようとする事ができる。	③スポーツの多様な関わり方の実践を通して、子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い、規律ある学級経営を行おうとすることができる。	④スポーツに関わる幅広い知識と技能を基盤として、教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、授業を行うことができる。			
【4年】	3. スポーツ科学の知と技の基礎として、教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から積極的に学び、共に成長しようとする強い決意を持つことができる。 2. スポーツ科学の知と技の基礎として、教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学び、共に成長しようとする姿勢を持つことができる。 1. スポーツ科学の知と技の基礎として、教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学ぼうとすることができる。	3. スポーツで学んだ全人的にバランスのとれた態度で、教職員、保護者・地域の関係者と連携・協働の意義を理解した上で、職務を遂行しようとする事ができる。 2. スポーツで学んだ全人的にバランスのとれた態度で、教職員、保護者・地域の関係者と連携・協働しながら職務を遂行しようとする事ができる。 1. スポーツで学んだ全人的にバランスのとれた態度で、教職員、保護者と連携・協働しながら職務を遂行しようとする事ができる。	3. スポーツの多様な関わり方の実践を通して、子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い、規律ある学級経営を建設的に両立させようとする。 2. スポーツの多様な関わり方の実践を通して、子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い、規律ある学級経営を行おうとすることができる。 1. スポーツの多様な関わり方の実践を通して、子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行いながら学級経営を行おうとすることができる。	3. スポーツに関わる幅広い知識と技能を基盤として、教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、クラスの実態に対応した授業を行うことができる。 2. スポーツに関わる幅広い知識と技能を基盤として、教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、授業を行うことができる。 1. スポーツに関わる幅広い知識と技能を基盤として、授業を行う上での基本的な表現力を身につけ、授業を行うことができる。			
	アセスメント方法 ・アンケート	【科目】 教育実習研修 教育実習Ⅰ・Ⅱ 教職実践演習	アセスメント方法 ・アンケート	【科目】 教育実習研修 教育実習Ⅰ・Ⅱ 教職実践演習	アセスメント方法 ・アンケート	【科目】 教育実習研修 教育実習Ⅰ・Ⅱ 教職実践演習	アセスメント方法 ・アンケート
【3年】	3. 教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学ぼうとすることができる。 2. 教育に対する使命感や責任感を持つことができる。 1. 教育に対する期待感と責任感を持つことができる。	3. 教職員、連携・協働しながら職務を遂行しようとする事ができる。 2. 教職員に学びながら職務を遂行しようとする事ができる。 1. 教職員を手本としながら職務を遂行しようとする事ができる。	3. 子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行いながら集団指導を行おうとすることができる。 2. 子供の発達や心身の状況に応じて適切な個別指導を行おうとする。 1. 子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行おうとする。	3. 教科等の知識や技能を身に付け、授業を行うことができる。 2. 教科等の知識を身につけ、授業を行うことができる。 1. 教科等の知識を身につけようとする。			
	アセスメント方法 ・アンケート	【科目】 ・学校と教育の歴史 ・介護等体験実習	アセスメント方法 ・アンケート	【科目】 学校と教育の歴史 総合的な学習の時間の指導法 介護等体験実習	アセスメント方法 ・アンケート	【科目】 学校と教育の歴史 道徳教育指導論 介護等体験実習	アセスメント方法 ・アンケート
【2年】	3. 教育に対する期待感と責任感を持つことができる。 2. 教育に対し期待感を持つことができる。 1. 教育に対する期待感が不十分である。	3. 教職員の姿をイメージしながら職務を遂行しようとする事ができる。 2. 教職員の姿を積極的にイメージしようとしている。 1. 教職員の姿をイメージしようとしなない。	3. 子供の発達や心身の状況に即応しようとする。 2. 子供の発達や心身の状況の把握の意義を理解している。 1. 子供の発達や心身の状況の把握の意義がわからない。	3. 教科等の学習指導案を項目に沿って書ける。 2. 教科等の学習指導案を自分なりに書ける。 1. 教科等の学習指導案を書けない。			
	アセスメント方法 ・アンケート	【科目】 教職概論 教育社会学 生徒指導・教育相談 進路指導論	アセスメント方法 ・アンケート	【科目】 教職概論 教育社会学 特別支援教育概論 教育課程論 生徒指導・教育相談 進路指導論	アセスメント方法 ・アンケート	【科目】 教育心理学 特別支援教育概論 教育課程論 特別活動論 教育方法論 生徒指導・教育相談 教職概論 教育社会学 進路指導論	アセスメント方法 ・アンケート

4 アンケート結果

2023年1月～2月にかけて、Microsoft Forms を用いてアンケート調査を実施した。対象となる教職課程履修学生数は、法学部 64名(2年13名, 3年33名, 4年18名), 経営学部 16名(2年9名, 3年6名, 4年1名), 健康栄養学部 13名(2年9名, 3年2名, 4年2名), スポーツ科学部 273名(2年67名, 3年104名, 4年98名, 科目等履修生4名)である。アンケートの質問内容は、「3 学修成果の可視化を図るためのルーブリック」で示した各学部のルーブリックを基に学部ごと作成した。具体的には、各学部の学年ごとに設定したルーブリックの「レベル3」について5件法(当てはまる, やや当てはまる, どちらともいえない, あまり当てはまらない, 当てはまらない)で尋ねることとした。

以下、学部ごとのアンケート内容と結果を示すことにする。なお、アンケートへの回答は、学生らの自由意思に基づいて実施させるよう配慮した。未実施あるいは途中放棄の場合など成績には反映されないこと、得られた情報の管理は厳重に行うこと、個人が特定されることはない旨も口頭及び文章で説明した。

4.1 法学部

法学部では、計40名が回答した。質問内容と結果は以下の通りである。

- ① 法学部の教職課程の第1目標「正義と衡平の観念を基礎にしながら、教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学び、共に成長しようとする姿勢を持つことができる」に関して、その1, その2, その3について当てはまるものを選択してください。

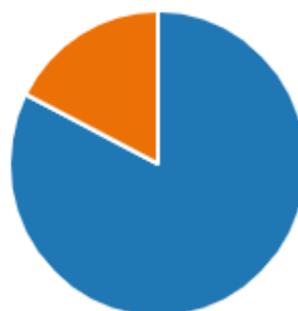
- ・ その1(2年生のルーブリック3):教育に対する期待感と責任感を持つことができる。

● 当てはまる	35
● やや当てはまる	5
● どちらともいえない	0
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



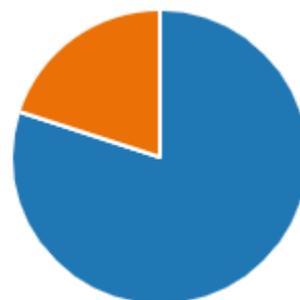
- ・ その2(3年生のルーブリック3):教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学ぼうとすることができる。

● 当てはまる	33
● やや当てはまる	7
● どちらでもない	0
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



- ・ その3(4年生のルーブリック3):正義と衡平の観念を基礎にしながら,教育に対する使命感や責任感を持ち,常に子供から積極的に学び,共に成長しようとする強い決意を持つことができる.

● 当てはまる	32
● やや当てはまる	8
● どちらでもない	0
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



- ② 法学部の教職課程の第2目標「他者理解を図り,物事を面的にとらえながら,教職員,保護者・地域の関係者と連携・協働し,職務を遂行しようとすることができる」に関して,その1,その2,その3について当てはまるものを選択してください.

- ・ その1(2年生のルーブリック3):教職員の姿をイメージしながら職務を遂行しようとする事ができる.

● 当てはまる	27
● やや当てはまる	12
● どちらでもない	1
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



- ・ その2(3年生のルーブリック3):他者理解を図り,物事を多面的にとらえながら,教職員,連携・協働し,職務を遂行しようとする事ができる.

● 当てはまる	29
● やや当てはまる	11
● どちらでもない	0
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



- ・ その3(4年生のルーブリック3):他者理解を図り,物事を多面的にとらえながら,教職員,保護者・地域の関係者と連携・協働の意義を理解した上で,職務を遂行しようとする事ができる.

● 当てはまる	29
● やや当てはまる	11
● どちらでもない	0
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



- ③ 法学部の教職課程の第3目標「子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い,公正・公平で規律ある学級経営を行おうとすることができる」に関して,その1,その2,その3について当てはまるものを選択してください.

- ・ その1(2年生のルーブリック3):子供の発達や心身の状況に即応しようとする.

● 当てはまる	33
● やや当てはまる	6
● どちらでもない	1
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



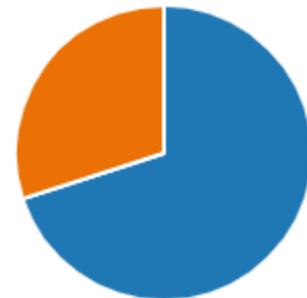
- ・ その2(3年生のルーブリック3):子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行いながら集団指導を行おうとすることができる.

● 当てはまる	32
● やや当てはまる	8
● どちらでもない	0
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



- ・ その3(4年生のルーブリック3):子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い,公正・公平で規律ある学級経営を建設的に両立させようとする.

● 当てはまる	28
● やや当てはまる	12
● どちらでもない	0
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



- ④ 法学部の教職課程の第4目標「法学の基本的素養を基盤としながら,教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け,授業を行うことができる」に関して,その1,その2,その3について当てはまるものを選択してください.

- ・ その1(2年生のルーブリック3):教科等の学習指導案を項目に沿って書ける.

● 当てはまる	32
● やや当てはまる	7
● どちらでもない	1
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



- ・ その2(3年生のルーブリック3):教科等の知識や技能を身につけ,授業を行うことができる.

● 当てはまる	30
● やや当てはまる	9
● どちらでもない	1
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



- ・ その3(4年生のルーブリック3):法学の基本的素養を基盤としながら,教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身につけ,クラスの実態に対応した授業を行うことができる。

● 当てはまる	30
● やや当てはまる	8
● どちらでもない	2
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



4.2 経営学部

経営学部では,計8名が回答した.質問内容と結果は以下の通りである.

- ① 経営学部の教職課程の第1目標「経営学を基盤に教育に対する使命感や責任感を持ち,常に子供から学び,共に成長しようとする姿勢を持つことができる」に関して,その1,その2,その3について当てはまるものを選択してください。

- ・ その1(2年生のルーブリック3):教育に対する期待感と責任感を持つことができる。

● 当てはまる	5
● やや当てはまる	3
● どちらでもない	0
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



- ・ その2(3年生のルーブリック3):教育に対する使命感や責任感を持ち,常に子供から学ぼうとすることができる。

● 当てはまる	5
● やや当てはまる	2
● どちらでもない	0
● あまり当てはまらない	1
● 当てはまらない	0



- ・ その3(4年生のルーブリック3):経営学を基盤に教育に対する使命感や責任感を持ち,常に子供から積極的に学び,共に成長しようとする強い決意を持つことができる.

● 当てはまる	4
● やや当てはまる	4
● どちらでもない	0
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



② 経営学部の教職課程の第2目標「主体的実践能力を兼ね備え,教職員,保護者・地域の関係者と連協・協働しながら職務を遂行しようとすることができる」に関して,その1,その2,その3について当てはまるものを選択してください.

- ・ その1(2年生のルーブリック3):教職員の姿をイメージしながら職務を遂行しようとするすることができる.

● 当てはまる	2
● やや当てはまる	5
● どちらでもない	1
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



- ・ その2(3年生のルーブリック3):主体的実践能力を兼ね備え,教職員と連携・協働しながら職務を遂行しようとするすることができる.

● 当てはまる	1
● やや当てはまる	7
● どちらでもない	0
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



- ・ その3(4年生のルーブリック3):主体的実践能力を兼ね備え,教職員,保護者・地域の関係者と連携・協働の意義を理解した上で,職務を遂行しようとする事ができる.

● 当てはまる	1
● やや当てはまる	5
● どちらでもない	1
● あまり当てはまらない	1
● 当てはまらない	0



③ 経営学部の教職課程の第3目標「子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い,マネジメント・マインドを基に規律ある学級経営を行おうとすることができる」に関して,その1,その2,その3について当てはまるものを選択してください.

- ・ その1(2年生のルーブリック3):子供の発達や心身の状況に即応しようとする.

● 当てはまる	1
● やや当てはまる	5
● どちらでもない	1
● あまり当てはまらない	1
● 当てはまらない	0



- ・ その2(3年生のルーブリック3):子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行いながら集団指導を行おうとすることができる.

● 当てはまる	1
● やや当てはまる	6
● どちらでもない	0
● あまり当てはまらない	1
● 当てはまらない	0



- ・ その3(4年生のルーブリック3):子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い,マネジメント・マインドを基に規律ある学級経営を建設的に両立させようとする.

● 当てはまる	2
● やや当てはまる	6
● どちらでもない	0
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



- ④ 経営学部の教職課程の第4目標「経営学・マーケティング・会計学・経済学の基本的素養を基盤としながら,教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け,授業を行うことができる」に関して,その1,その2,その3について当てはまるものを選択してください.

- ・ その1(2年生のルーブリック3):教科等の学習指導案を項目に沿って書ける.

● 当てはまる	1
● やや当てはまる	5
● どちらでもない	0
● あまり当てはまらない	1
● 当てはまらない	1



- ・ その2(3年生のルーブリック3):教科等の知識や技能を身につけ,授業を行うことができる.

● 当てはまる	3
● やや当てはまる	2
● どちらでもない	1
● あまり当てはまらない	1
● 当てはまらない	1



- ・ その3(4年生のルーブリック3):経営学・マーケティング・会計学・経済学の基本的素養を基盤としながら、教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身につけ、クラスの実態に対応した授業を行うことができる。

● 当てはまる	0
● やや当てはまる	6
● どちらでもない	1
● あまり当てはまらない	1
● 当てはまらない	0



4.3 健康栄養学部

健康栄養学部では、計9名が回答した。質問内容と結果は以下の通りである。

- ① 健康栄養学部の教職課程の第1目標「教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学び、共に成長しようとする姿勢を持つことができる」に関して、その1, その2, その3について当てはまるものを選択してください。

- ・ その1(2年生のルーブリック3):教育に対する期待感と責任感を持つことができる。

● 当てはまる	2
● やや当てはまる	7
● どちらでもない	0
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



- ・ その2(3年生のルーブリック3):教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学ぼうとすることができる。

● 当てはまる	3
● やや当てはまる	5
● どちらでもない	1
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



- ・ その3(4年生のルーブリック3):教育に対する使命感や責任感を持ち,常に子供から積極的に学び,共に成長しようとする強い決意を持つことができる.

● 当てはまる	3
● やや当てはまる	5
● どちらでもない	1
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



- ② 健康栄養学部の教職課程の第2目標「教職員,保護者・地域の関係者と連携・協働しながら職務を遂行しようとすることができる」に関して,その1,その2,その3について当てはまるものを選択してください.

- ・ その1(2年生のルーブリック3):教職員の姿をイメージしながら職務を遂行しようとするすることができる.

● 当てはまる	3
● やや当てはまる	5
● どちらでもない	0
● あまり当てはまらない	1
● 当てはまらない	0



- ・ その2(3年生のルーブリック3):教職員,連携・協働しながら職務を遂行しようとするすることができる.

● 当てはまる	2
● やや当てはまる	6
● どちらでもない	0
● あまり当てはまらない	1
● 当てはまらない	0



- ・ その3(4年生のルーブリック3):教職員、保護者・地域の関係者と連携・協働の意義を理解した上で、職務を遂行しようとする事ができる。

● 当てはまる	1
● やや当てはまる	6
● どちらでもない	0
● あまり当てはまらない	2
● 当てはまらない	0



- ③ 健康栄養学部の教職課程の第3目標「子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い、各教科等の食に関する指導と意図的に関連させた給食計画を実施しようとする事ができる」に関して、その1, その2, その3について当てはまるものを選択してください。

- ・ その1(2年生のルーブリック3):子供の発達や心身の状況に即応しようとする。

● 当てはまる	4
● やや当てはまる	5
● どちらでもない	0
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



- ・ その2(3年生のルーブリック3):子供の発達や心身の状況に応じた給食計画と食に関する指導とを]意図的に関連させ、給食を生きた教材として指導に活用することができる。

● 当てはまる	3
● やや当てはまる	6
● どちらでもない	0
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



- ・ その3(4年生のルーブリック3):教育実習校の子供の発達や心身の状況に応じた適切な指導を行う上で、給食を生きた教材として指導に活用することができる。

● 当てはまる	3
● やや当てはまる	5
● どちらでもない	1
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



- ④ 健康栄養学部の教職課程の第4目標「教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、授業や給食の時間の指導を行うことができる」に関して、その1、その2、その3について当てはまるものを選択してください。

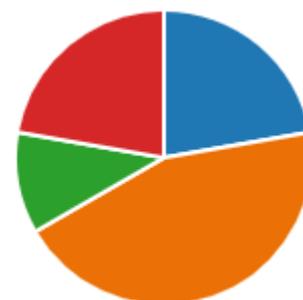
- ・ その1(2年生のルーブリック3):教科等の学習指導案を項目に沿って書ける。

● 当てはまる	3
● やや当てはまる	5
● どちらでもない	1
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



- ・ その2(3年生のルーブリック3):教科等の知識や技能および食育の視点を身につけ、行動変容を促す食に関する指導を行うことができる。

● 当てはまる	2
● やや当てはまる	4
● どちらでもない	1
● あまり当てはまらない	2
● 当てはまらない	0



- ・ その3(4年生のルーブリック3):教科等の知識や技能および授業を行う上での基本的な表現力を身につけ,児童生徒の実態に応じた食に関する指導を行い,実践へとつなげて行動変容を促すことができる.

● 当てはまる	2
● やや当てはまる	4
● どちらでもない	1
● あまり当てはまらない	2
● 当てはまらない	0



4.4 スポーツ科学部

スポーツ科学部では,計199名が回答した.質問内容と結果は以下の通りである.

- ① スポーツ科学部の教職課程の第1目標「スポーツ科学の知と技の基礎として,教育に対する使命感や責任感を持ち,常に子供から学び,共に成長しようとする姿勢を持つことができる」に関して,その1,その2,その3について当てはまるものを選択してください.

- ・ その1(2年生のルーブリック3):教育に対する期待感と責任感を持つことができる.

● 当てはまる	116
● やや当てはまる	74
● どちらでもない	9
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



- ・ その2(3年生のルーブリック3):教育に対する使命感や責任感を持ち,常に子供から学ぼうとすることができる.

● 当てはまる	123
● やや当てはまる	70
● どちらでもない	5
● あまり当てはまらない	1
● 当てはまらない	0



- ・ その3(4年生のルーブリック3):スポーツ科学の知と技の基礎として,教育に対する使命感や責任感を持ち,常に子供から積極的に学び,共に成長しようとする強い決意を持つことができる.

● 当てはまる	122
● やや当てはまる	71
● どちらでもない	5
● あまり当てはまらない	1
● 当てはまらない	0



- ② スポーツ科学部の教職課程の第2目標「スポーツで学んだ全人的にバランスのとれた態度で,教職員,保護者・地域の関係者と連携・協働しながら職務を遂行しようとする事ができる」に関して,その1,その2,その3について当てはまるものを選択してください.

- ・ その1(2年生のルーブリック3):教職員の姿をイメージしながら職務を遂行しようとする事ができる.

● 当てはまる	109
● やや当てはまる	81
● どちらでもない	9
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



- ・ その2(3年生のルーブリック3):教職員,連携・協働しながら職務を遂行しようとする事ができる.

● 当てはまる	116
● やや当てはまる	68
● どちらでもない	14
● あまり当てはまらない	1
● 当てはまらない	0



- ・ その3(4年生のルーブリック3):スポーツで学んだ全人的にバランスのとれた態度で、教職員、保護者・地域の関係者と連携・協働の意義を理解した上で、職務を遂行しようとする事ができる。

● 当てはまる	110
● やや当てはまる	79
● どちらでもない	9
● あまり当てはまらない	1
● 当てはまらない	0



- ③ スポーツ科学部の教職課程の第3目標「スポーツの多様な関わり方の実践を通して、子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い、規律ある学級経営を行おうとすることができる」に関して、その1, その2, その3について当てはまるものを選択してください。

- ・ その1(2年生のルーブリック3):子供の発達や心身の状況に即応しようとする。

● 当てはまる	117
● やや当てはまる	73
● どちらでもない	8
● あまり当てはまらない	1
● 当てはまらない	0



- ・ その2(3年生のルーブリック3):子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行いながら集団指導を行おうとすることができる。

● 当てはまる	115
● やや当てはまる	71
● どちらでもない	13
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



・ その3(4年生のルーブリック3):スポーツの多様な関わり方の実践を通して,子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い,規律ある学級経営を建設的に両立させようとする.

● 当てはまる	110
● やや当てはまる	77
● どちらでもない	12
● あまり当てはまらない	0
● 当てはまらない	0



④ スポーツ科学部の教職課程の第4目標「スポーツに関わる幅広い知識と技能を基盤として,教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け,授業を行うことができる」に関して,その1,その2,その3について当てはまるものを選択してください.

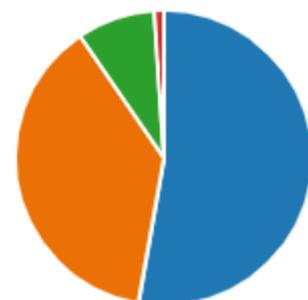
・ その1(2年生のルーブリック3):教科等の学習指導案を項目に沿って書ける.

● 当てはまる	107
● やや当てはまる	71
● どちらでもない	18
● あまり当てはまらない	3
● 当てはまらない	0



・ その2(3年生のルーブリック3):教科等の知識や技能を身につけ,授業を行うことができる.

● 当てはまる	105
● やや当てはまる	75
● どちらでもない	17
● あまり当てはまらない	2
● 当てはまらない	0



- ・ その 3(4 年生のルーブリック 3):スポーツに関わる幅広い知識と技能を基盤として, 教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身につけ, クラスの実態に対応した授業を行うことができる.

● 当てはまる	98
● やや当てはまる	81
● どちらでもない	17
● あまり当てはまらない	3
● 当てはまらない	0



5 考察

アンケート結果を基に, 学部毎に考察する.

5.1 法学部

第 1 目標の「正義と衡平の観念を基礎としながら, 教育に対する使命感や責任感を持ち, 常に子供から学び, 共に成長しようとする姿勢を持つことができる」に関して, 「2 年生のルーブリック 3」, 「3 年生のルーブリック 3」, 「4 年生のルーブリック 3」に対しては, 回答した 40 名の全ての学生が, 「当てはまる」「やや当てはまる」という回答を示した.

第 2 目標の「他者理解を図り, 物事を面的にとらえながら, 教職員, 保護者・地域の関係者と連携・協働し, 職務を遂行しようすることができる」に関して, 「2 年生のルーブリック 3」に対しては, 回答した 40 名の内の 39 名の学生が「当てはまる」「やや当てはまる」, 1 名が「どちらでもない」という回答を示した. 「3 年生のルーブリック 3」及び「4 年生のルーブリック 3」に対しては, 回答した 40 名の全ての学生が, 「当てはまる」「やや当てはまる」という回答を示した.

第 3 目標の「子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い, 公正・公平で規律ある学級経営を行おうすることができる」に関して, 「2 年生のルーブリック 3」に対しては, 回答した 40 名の内の 39 名の学生が「当てはまる」「やや当てはまる」, 1 名の学生が「どちらでもない」という回答を示した. 「3 年生のルーブリック 3」及び「4 年生のルーブリック 3」に対しては, 回答した 40 名の全ての学生が, 「当てはまる」「やや当てはまる」という回答を示した.

第 4 目標の「法学の基本的素養を基盤としながら, 教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け, 授業を行うことができる」に関して, 「2 年生のルーブリック 3」及び「3 年生のルーブリック 3」に対しては, 回答した 40 名の内の 39 名の学生が「当てはまる」「やや当てはまる」, 1 名の学生が「どちらでもない」という回答を示した. 「4 年生のルーブリック 3」に対しては, 回答した 40 名の内の 38 名の学生が「当てはまる」「やや当てはまる」, 2 名の学生が「どちらでもない」という回答を示した.

全体としては自己評価ではあるが, 優良な結果を得ることができた. 法学部の 4 つの教職課程の目標の「4 年生のルーブリック 3」のレベルに, 4 年生の他, 2 年生, 3 年生の段階で到達している学生もおり,

第 1, 2, 3 目標においては、「当てはまる」「やや当てはまる」とした学生が回答者全体の 100%, 第 4 目標においては、「当てはまる」「やや当てはまる」とした学生が回答者全体の 95%に到達した点が注目に値する。この要因として、2 年生, 3 年生の段階で、学校現場を強く意識させ、想像させる授業が展開されていたことが考えられる。このことにより、2, 3 年生でも早い段階から「4 年生のルーブリック 3」のレベルに到達したと推察することができる。

5.2 経営学部

第 1 目標の「経営学を基盤に教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学び、共に成長しようとする姿勢を持つことができる」に関して、「2 年生のルーブリック 3」及び「4 年生のルーブリック 3」に対しては、回答した 8 名全員が「当てはまる」「やや当てはまる」という回答を示した。「3 年生のルーブリック 3」に対しては、回答した 8 名の内の 7 名が「当てはまる」「やや当てはまる」、1 名が「あまり当てはまらない」という回答を示した。

第 2 目標の「主体的実践能力を兼ね備え、教職員、保護者・地域の関係者と連協・協働しながら職務を遂行しようとすることができる」に関して、「2 年生のルーブリック 3」に対して、回答した 8 名の内の 7 名が「当てはまる」「ややあてはまる」、1 名が「どちらでもない」という回答を示した。「3 年生のルーブリック 3」に対しては、回答した 8 名全員が「当てはまる」「やや当てはまる」という回答を示した。「4 年生のルーブリック 3」に対しては、回答した 8 名の内の 6 名が「当てはまる」「やや当てはまる」、1 名が「どちらでもない」、1 名が「あまり当てはまらない」という回答を示した。

第 3 目標の「子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い、マネジメント・マインドを基に規律ある学級経営を行おうとすることができる」に関して、「2 年生のルーブリック 3」に対しては、回答した 8 名の内の 6 名が「当てはまる」「やや当てはまる」、1 名が「どちらでもない」、1 名が「あまり当てはまらない」という回答を示した。「3 年生のルーブリック 3」に対しては、回答した 8 名の内の 7 名が「当てはまる」「やや当てはまる」、1 名が「あまり当てはまらない」という回答を示した。「4 年生のルーブリック 3」に対しては、回答した 8 名全員が「当てはまる」「やや当てはまる」という回答を示した。

第 4 目標の「経営学・マーケティング・会計学・経済学の基本的素養を基盤としながら、教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、授業を行うことができる」に関して、「2 年生のルーブリック 3」に対しては、回答した 8 名の内の 6 名が「当てはまる」「ややあてはまる」、1 名が「あまり当てはまらない」、1 名が「当てはまらない」という回答を示した。「3 年生のルーブリック 3」に対しては、回答した 8 名の内の 5 名が「当てはまる」「ややあてはまる」、1 名が「どちらでもない」、1 名が「あまり当てはまらない」、1 名が「当てはまらない」という回答を示した。「4 年生のルーブリック 3」に対しては、回答した 8 名の内の 6 名が「ややあてはまる」、1 名が「どちらでもない」、1 名が「あまり当てはまらない」という回答を示した。

全体として経営学部も自己評価ではあるが、良好な結果を得ることができた。経営学部の 4 つの教職課程の目標の「4 年生のルーブリック 3」のレベルに、4 年生の他、2 年生, 3 年生の段階で到達している学生もあり、第 1, 3 目標においては、「当てはまる」「やや当てはまる」とした学生が回答者全体の 100%に到達した。この要因として、法学部同様に、第 1, 3 目標においては、2 年生, 3 年生の段階で、学校現場を強く意識させ、想像させる授業が展開されていたことが考えられる。このことにより、2, 3 年生でも早い段階から「4 年生のルーブリック 3」のレベルに到達したと推察することができる。

第1, 3目標と比べ、第2, 4目標では、「4年生のルーブリック3」のレベルに「当てはまる」「やや当てはまる」とした学生が回答者全体の75%に留まった。この要因として、第2, 4目標の内容は、第1, 3目標に比して具体的な学校現場を強く意識した目標内容となっていること、加えて経営学部の教職課程の学生は、「現実的に高等学校の商業科教員になることは難しい(自治体の募集者数が少ない)ので、とりあえず免許状の取得のみで」という意識で各授業を履修している学生が多いことからではないかと推察する。この「現実的に高等学校の商業科教員になることは難しい」という意識は、教職課程の履修者数にも反映され、法学部・スポーツ科学部に比して毎年履修者は少なく、それに伴って免許状取得者も少ない¹⁵⁾。今後は、商業科教員への就職支援等も含め、経営学部の教職課程についても検討していく必要がある。

5.3 健康栄養学部

第1目標の「教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学び、共に成長しようとする姿勢を持つことができる」に関して、「2年生のルーブリック3」に対しては、回答した9名全員が「当てはまる」「ややあてはまる」という回答を示した。「3年生のルーブリック3」及び「4年生のルーブリック3」に対しては、回答した9名の内の8名が「当てはまる」「ややあてはまる」、1名が「どちらでもない」という回答を示した。

第2目標の「教職員、保護者・地域の関係者と連携・協働しながら職務を遂行しようとすることができる」に関して、「2年生のルーブリック3」及び「3年生のルーブリック3」に対しては、回答した9名の内の8名が「当てはまる」「ややあてはまる」、1名が「あまり当てはまらない」という回答を示した。「4年生のルーブリック3」に対しては、回答した9名の内の7名が「当てはまる」「ややあてはまる」、2名が「あまり当てはまらない」という回答を示した。

第3目標の「子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い、各教科等の食に関する指導と意図的に関連させた給食計画を実施しようとすることができる」に関して、「2年生のルーブリック3」及び「3年生のルーブリック3」に対しては、回答した9名全員が「当てはまる」「ややあてはまる」という回答を示した。「4年生のルーブリック3」に対しては、回答した9名の内の8名が「当てはまる」「ややあてはまる」、1名が「どちらでもない」という回答を示した。

第4目標の「教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、授業や給食の時間の指導を行うことができる」に関しては、「2年生のルーブリック3」に対しては、回答した9名の内の8名が「当てはまる」「ややあてはまる」、1名が「どちらでもない」という回答を示した。「3年生のルーブリック3」に対しては、回答した9名の内の6名が「当てはまる」「ややあてはまる」、1名が「どちらでもない」、2名が「あまり当てはまらない」という回答を示した。「4年生のルーブリック3」に対しては、回答した9名の内の6名が「当てはまる」「ややあてはまる」、1名が「どちらでもない」、2名が「あまり当てはまらない」という回答を示した。

全体として健康栄養学部も自己評価ではあるが、良好な結果を得ることができた。健康栄養学部の4つの教職課程の目標の「4年生のルーブリック3」のレベルに、4年生の他、2年生、3年生の段階で到達している学生もおり、第1, 3目標においては、「当てはまる」「やや当てはまる」とした学生が回答者全体の89%に到達した。この要因として、法学部・経営学部同様に、第1, 3目標においては、2年生、3年生の段階で、学校現場を強く意識させ、想像させる授業が展開されていたことが考えられる。このことにより、2, 3年生でも早い段階から「4年生のルーブリック3」のレベルに到達したと推察することができる。

第1, 3目標に比べ、第2目標では、「4年生のルーブリック3」のレベルに「当てはまる」「やや当てはま

る」とした学生が回答者全体の 78%, 第 4 目標では、「4 年生のルーブリック 3」のレベルに「当てはまる」「やや当てはまる」とした学生が回答者全体の 67%に留まった。この要因として、経営学部の教職課程の学生と同様に健康栄養学部の学生も、「現実的に栄養教諭になることは難しい(自治体の募集者数が少ない)ので、とりあえず免許状の取得のみで」という意識で各授業を履修している学生が多いからではないかと推察する。この「現実的に栄養教諭になることは難しい」という意識は、経営学部と同様に教職課程の履修者数にも反映され、法学部・スポーツ科学部に比して毎年履修者は少なく、それに伴って免許状取得者も少ない¹⁶⁾。加えて、健康栄養学部の学生は、管理栄養士の国家試験も控えての教職課程の履修でもある。この点も配慮しながら栄養教諭への就職支援等も含め、検討していく必要がある。

5.4 スポーツ科学部

第 1 目標の「スポーツ科学の知と技の基礎として、教育に対する使命感や責任感を持ち、常に子供から学び、共に成長しようとする姿勢を持つことができる」に関して、「2 年生のルーブリック 3」に対しては、回答した 199 名の内の 190 名が「当てはまる」「やや当てはまる」、9 名が「どちらでもない」という回答を示した。「3 年生のルーブリック 3」及び「4 年生のルーブリック 3」に対しては、回答した 199 名の内の 193 名が「当てはまる」「やや当てはまる」、5 名が「どちらでもない」、1 名が「あまり当てはまらない」という回答を示した。

第 2 目標の「スポーツで学んだ全人的にバランスのとれた態度で、教職員、保護者・地域の関係者と連携・協働しながら職務を遂行しようとすることができる」に関して、「2 年生のルーブリック 3」に対しては、回答した 199 名の内の 190 名が「当てはまる」「やや当てはまる」、9 名が「どちらでもない」という回答を示した。「3 年生のルーブリック 3」に対しては、回答した 199 名の内の 184 名が「当てはまる」「やや当てはまる」、14 名が「どちらでもない」、1 名が「あまり当てはまらない」という回答を示した。「4 年生のルーブリック 3」に対しては、回答した 199 名の内の 189 名が「当てはまる」「やや当てはまる」、9 名が「どちらでもない」、1 名が「あまり当てはまらない」という回答を示した。

第 3 目標の「スポーツの多様な関わり方の実践を通して、子供の発達や心身の状況に応じて適切な指導を行い、規律ある学級経営を行おうとすることができる」に関して、「2 年生のルーブリック 3」に対しては、回答した 199 名の内の 190 名が「当てはまる」「やや当てはまる」、8 名が「どちらでもない」、1 名が「あまり当てはまらない」という回答を示した。「3 年生のルーブリック 3」に対しては、回答した 199 名の内の 186 名が「当てはまる」「やや当てはまる」、13 名が「どちらでもない」という回答を示した。「4 年生のルーブリック 3」に対しては、回答した 199 名の内の 187 名が「当てはまる」「やや当てはまる」、12 名が「どちらでもない」という回答を示した。

第 4 目標の「スポーツに関わる幅広い知識と技能を基盤として、教科等の知識や技能や授業を行う上での基本的な表現力を身に付け、授業を行うことができる」に関して、「2 年生のルーブリック 3」に対しては、回答した 199 名の内の 178 名が「当てはまる」「やや当てはまる」、18 名が「どちらでもない」、3 名が「あまり当てはまらない」という回答を示した。「3 年生のルーブリック 3」に対しては、回答した 199 名の内の 180 名が「当てはまる」「やや当てはまる」、17 名が「どちらでもない」、2 名が「あまり当てはまらない」という回答を示した。「4 年生のルーブリック 3」に対しては、回答した 199 名の内の 179 名が「当てはまる」「やや当てはまる」、17 名が「どちらでもない」、3 名が「あまり当てはまらない」という回答を示した。

全体としては自己評価ではあるが、法学部同様に優良な結果を得ることができた。スポーツ科学部の 4

つの教職課程の目標の「4年生のルーブリック3」のレベルに、4年生の他、2年生、3年生の段階で到達している学生もおり、第1目標においては、「当てはまる」「やや当てはまる」とした学生が回答者全体の97%、第2目標においては、「当てはまる」「やや当てはまる」とした学生が回答者全体の95%、第3目標においては、「当てはまる」「やや当てはまる」とした学生が回答者全体の94%、第4目標においては、「当てはまる」「やや当てはまる」とした学生が回答者全体の90%に到達した点が注目になる。この要因として、法学部・経営学部・健康栄養学部同様に2年生、3年生の段階で、学校現場を強く意識させ、想像させる授業が展開されていたことが考えられる。このことにより、2、3年生でも早い段階から4年生の「ルーブリック3」のレベルに到達したと推察することができる。

5.5 成果と課題

以上、アンケート結果を基に各学部の考察を行ってきた。このことを踏まえ、2022年度の本学の教職課程の成果と課題について述べる。まず、成果としては、どの学部でも4年生の他、2年生、3年生の段階で、「4年生のルーブリック3」のレベルに到達した学生がいたことである。この要因として、具体的な学校現場に対するイメージ化が図れている卓越した授業があることが推察される。次に、課題としては、「免許状の取得のみ」という目的意識で教職課程を履修している学生の指導の在り方をどのように図っていくかである。教職に就くためのより一層の手厚い支援や、「教師の魅力発信」を各授業担当者が意識して授業運営を展開していくことが求められる。今後の課題としたい。

6 おわりに

本稿は、2022年度の本学が実施した教職課程自己点検評価活動を踏まえた教職課程の活動報告を公表することを目的とした。今回は、教職履修学生に実施したアンケート調査を基にした学修成果の可視化を試み、その結果を踏まえて2022年度の本学の教職課程の成果及び課題について述べた。

成果としては、どの学部でも4年生の他、2年生、3年生の段階で、設定した目標の最高段階である「4年生のルーブリック3」のレベルに到達した学生がいたことである。この要因として、2年生、3年生の段階で、学校現場を強く意識させ、想像させる授業展開がなされていた卓越した授業が存在することが考えられる。今後の課題としては、「免許状の取得のみ」という目的意識で教職課程を履修している学生の指導の在り方をどのように図っていくかである。教員になるためのより一層の手厚い支援や、「教師の魅力発信」を各授業担当者が意識して授業運営を展開していくことが求められる。加えて、卓越した授業を特定し、そこから具体的なノウハウを学び合うことも重要となる。

引用文献

- 1) 教職課程の質保証のためのガイドライン検討会議「教職課程の自己点検・評価及び全学的に教職課程を実施する組織に関するガイドライン」一般社団法人全国私立大学教職課程協会教職課程質保証評価に関する特別委員会『「教職課程自己点検評価報告書」作成の手引き 令和4年度版(改訂版)』2022年, pp.30-40.
- 2) 同上書1), pp.21-27.
- 3) 同上書1).

- 4) 山梨学院大学教職センター「教職課程に関する情報公開」 「I. 教員養成の目標及び達成するための計画」, https://www.ygu.ac.jp/wp_ygu/wp-content/uploads/2022/11/2022kyoshoku_plan.pdf (2023年9月15日検索).
- 5) 同上書 4).
- 6) 同上書 4).
- 7) 同上書 4).
- 8) 同上書 4).
- 9) 同上書 4).
- 10) 同上書 4).
- 11) 同上書 4).
- 12) 同上書 4).
- 13) 同上書 4).
- 14) 同上書 4).
- 15) 山梨学院大学教職センター「教職課程に関する情報公開」 「IV. 卒業者の教員免許状取得状況」, https://www.ygu.ac.jp/wp_ygu/wp-content/uploads/2023/06/74bf2a9cb0ee68f8f3a1ef6c90e9c25e.pdf (2023年9月15日検索).
- 16) 同上書 15), (2023年9月15日検索).